



# 南丘小だより

平成26年11月4日(金)

発行責任者

北九州市立南丘小学校

校長 金子 博光

一人一人が生き生きと輝き、徳・知・体の調和のとれた子どもの育成

徳 やさしく 知 かしこく 体 元気よく

## 平成26年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。本校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

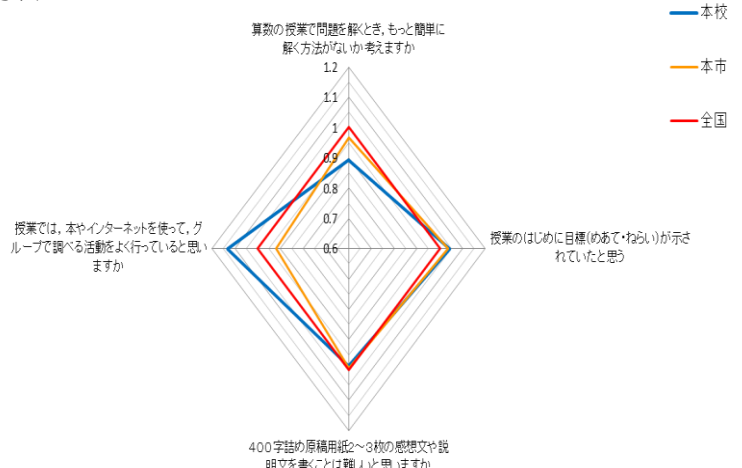
### 1. 教科に関する調査結果の概要

#### ① 学力調査結果と分析

カテゴリー	全国平均との比較	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語A	全国平均正答率を下回っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的には全国平均正答率を下回っていたが、物語の登場人物の相互関係を捉える力がついてきた。</li> <li>漢字の書き取り問題に課題があり、書き取りを習慣化する必要がある。</li> <li>新聞の投書を読み、表現の仕方を捉える問題は正答率が高い</li> <li>故事成語の意味と使い方を理解する問題については、誤答率が高かった。</li> </ul>
国語B	全国平均正答率を下回っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国平均正答率をわずかに下回っていたものの、年々上昇している。</li> <li>立場を明確にして、質問や意見を述べる問題の正答率が低かった。</li> <li>詩の解釈における着眼点の違いを捉える目的や意図に応じて、必要な内容を適切に引用して書く問題は、無解答率が低かった。</li> <li>分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書く問題は正答率が低かった。</li> </ul>
算数A	全国平均正答率を下回っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国平均正答率を下回っており、立体図形の問題の誤答率が高く、空間認識が苦手なことが分かった。</li> <li>算数の計算についての力が不足しており、基礎的な計算力をつける必要がある。</li> <li>二つの数量の関係について、単位量当たりの大きさを調べる場面と図とを関連付ける問題は正答率が高かった。</li> <li>四則の混合した式の意味について問うた問題は、誤答率が高かった。</li> </ul>
算数B	全国平均正答率を下回っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>一部、数量の問題で工夫して計算する方法を記述できるようになるなど、応用できるようになった。</li> <li>示された情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を記述できる児童の正答率が高かった。</li> <li>全体と部分の関係を示すために用いるグラフを選択する問題は、正答率が低かった。</li> </ul>

#### ② 学校における学習状況に関する調査結果と分析

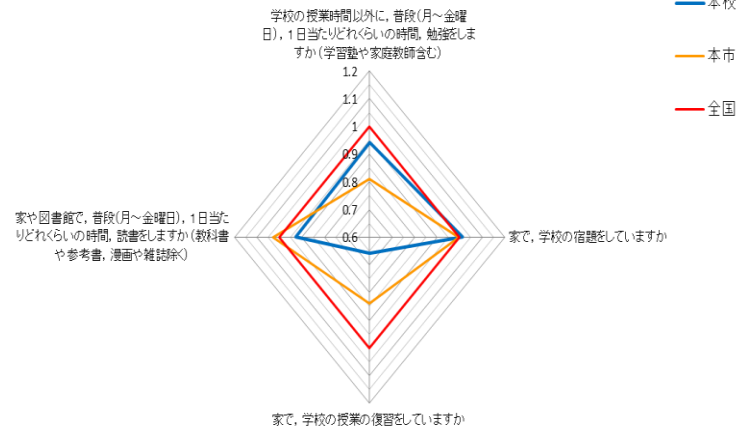
- 文章を書くことに抵抗感をもっている児童が増加している。書くことに関しては、自分の考えを書いて整理してから説明させたり、授業の終わりに振り返りを書く活動を位置付けたりして、書くことを授業に取り入れる必要がある。
- 算数科の学習において「はやく、かんたん、せいかく」に解くやり方はないか考えると答えている児童は、全国と比較してもその差が広がっている。今後は「は・か・せ」を意識させる授業を展開したり、算数的活動を効果的に取り入れた授業を行ったりしていく。
- 目標をもって学習に取り組む児童の割合が全国平均を上回ってきており、全校でめあて学習に取り組んでいる成果が出てきている。



## 2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

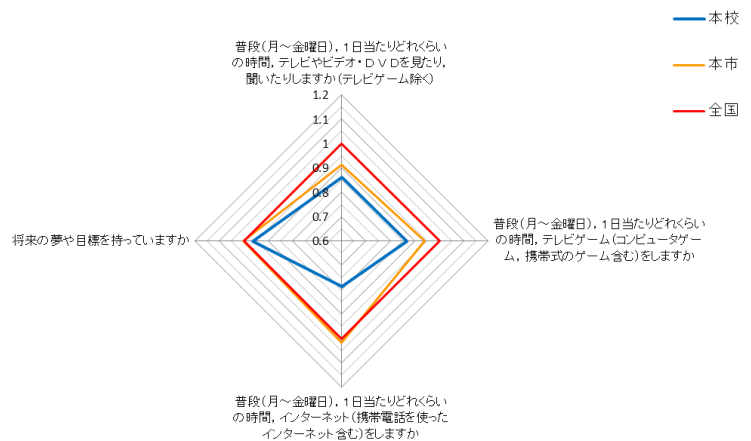
### ① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析

- ・1時間以上家庭学習をしている児童の割合は58.4%と本市の平均を上回っているが、全国平均には届かない。全くしない児童はいないが、30分以下の児童が16.7%おり課題が見られる。引き続き「南丘小学校 家庭学習のすすめ」で学習時間のめやすを示したり、家庭学習の具体的な取り組み方を指導したりする必要がある。
- ・自分で計画して授業の復習をしている児童の割合も全国より大差がある状況が続いており課題である。自主学習に取り組みさせるなど家庭と連携して進める必要がある。



### ② 生活習慣等に関する調査結果と分析

- ・テレビ、ゲーム、インターネット等の接触時間は、全国並びに本市の平均をかなり下回っている。しかし、4時間以上の長時間の利用の割合は大きく上回っている。
- ・この二極化を解消するために、メディアとの正しいつきあい方について、随時指導していく必要がある。
- ・将来の夢や希望をもっている児童は全国と同じくらいいる。それぞれの夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせることが必要である。



## 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

### ① 教科に関する取組

- ◎学力向上に関する職員会議の定期的な実施に努める。
  - ・全職員で学力の実態の確認・分析をする。
  - ・職員研修において学力調査の過去問題を解く時間を設ける。
- ◎学力向上のための特設時間を設置する。
  - ・朝自習(火曜、木曜の週2回)で全校一斉に読書タイムを実施
  - ・給食準備中に少人数加配教員を中心に2、3名の職員による「算数道場」の実施
- ◎学級の実態に応じてアシストシートや活用力を高めるワークを利用する。
  - ・家庭学習にアシストシートを利用する。
- 「書く」ことに慣れる取組の実施
  - ・学習の終わりにふり返りを書く時間を設ける。

### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- ◎家庭に向けて家庭学習推進を啓発
  - ・家庭学習推進のための家庭向けパンフレット「南丘小学校 家庭学習のすすめ」をもとに啓発を行う。
  - ・「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用し、家庭と連携して進める。
  - ・家庭学習マイスター賞への参加の呼びかけ
  - ・長期休業日中の宿題に学力調査の過去問題やアシストシートを活用する。
- ◎全国学力・学習状況調査の課題と取組状況について保護者へ周知
  - ・学校だより、学校ホームページで全国学力・学習状況調査の概要について周知する。

この調査結果をもとに、お子様のご家庭での学習習慣や生活習慣を見直していただくと幸いです。今後も、子ども一人一人に確かな学力の定着を図るため、日々の教育活動の充実に専念してまいります。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします